

第一回大島輝久の會 能『望月』を終えて

大島輝久

本年八月一日、東京の喜多能楽堂にて“第一回大島輝久の會”を催しました。長く自分の目標にしてきた大曲『望月』を無事に勤めました事、ご報告と御礼を申し上げます。

もともと、この會は同年一月末に計画しており、出演者への依頼なども全て済んでおりましたが、コロナ禍の影響を鑑み半年ほど延期致しました。夏になれば状況も落ち着いてくれるのではないかと、という期待をもって延期日を八月に定めたのですが、開催直前になって感染者数が急増するという厳しい状況になり、落ち着かない気持ちで当日を迎える事となりました。

『望月』は披き物の一つに数えられる曲で、修行時代から憧れを持っていました。ただ、この曲は子方に大きな比重がかかるため、どんなに自分が演じたいと思ってもタイミングが合わなければ中々演じることが出来ません。

息子が生まれた時、「この子が、子方が出来る内に『望月』を勤められる技量を自分自身が身に付けなければ・・・」と思い、修行を重ねてきました。

当日はコロナ禍で不安定な状況にも関わらず、会場には多くのお客様がお越し下さいました。『望月』の冒頭、舞台に出た瞬間に見えた満席の観客席を私は一生忘れる事はないと思います。この一年間、コロナ対策により観客数を制限された状況にどこか慣れてしまいましたが、満席の観客席から伝わる熱気が出演者に大きな力を与えてくれる事を改めて実感しました。

この度の舞台は無事に済んだものの、これからも当分の間はその時々状況を見極めながら舞台活動をしていかざるを得ません。普通だと思っていた事が普通では無くなってしまい、まだふとした瞬間に「長い夢を見ているのではないかと」思う事もあるのですが、また次の目標に向けて歩み続けていかなければと思っております。今後とも皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



2021年9月 記